

見ているだけじゃつまらないので… ショーカーを公道で試す!



「伝説と言っても過言ではないトミーカイラが、幾多の困難を乗り越えて世に放った4台がオートサロンに出品された。今回はその中の1台、インサイトRRを試す!

■文：橋本洋平 ■写真：伊藤嘉啓 ■取材協力：マリエール岡崎

名門チューナーの哲学
は今も息づいている!

獨創性あるクルマ造りを主眼に置いたトミーカイラは、1980年代後半に立ちあがったチューニングコンプリートカーを販売するブランドだった。当時代表的だったのは日産系をチューニングしたシリーズ。当初ベースとしたのは7thスカイラインだったといえは、歴史の長さがこころ解いたとけるハズ。その後

TOMMYKAIRA INSIGHT RR トミーカイラ インサイトRR



▲撮影当日に現れたのはオートサロンに展示されていた「まんま」のクルマだった!

◀運転席のドアを開くとトミーカイラが手がけたモデルであることを示すプレートが輝いている



◀マフラーは4本出し。ハーフスポイラーはFRP製だが、今後カーボンを使用予定だともリリースする予定だ



▶リアエンブレムにはLED照明が組み込まれ「H」を線取るように青い光を放つ



◀赤いバッジは七宝焼き。このほかにもエンブレムやステッカーを多数販売している

オリジナルのスタイルを みごとに昇華!



▲まさに地に張り付くような低さ。足まわりは車高調でローダウン、タイヤは215/35R18をチョイス

前後左右への
張り出し感で勝負!



▲▶フロント、サイド、リアのエアロパーツだけでも2パターンを用意。今後は車高調キットやエンジンルーム用のアクセサリが続々と登場するという

TOMMYKAIRA PRIUS RR
トミーカイラ プリウスRR



▲フロントスポイラーとグリルにはカーボンを使用。アイラインガーニッシュにより、鋭さが増している



▲低さを強調する上で欠かせないのがこのサイドステップ。こちらもカーボン製がラインアップされる予定(写真はFRP製)

オートサロンでは
R35&レガシィも目撃!



TOMMYKAIRA
Ebbrezza-R
シルバーウルフエディション

◀◀外観のスタイリングもさることながらその内装にも注目。内張はルーフライニングにいたるまで赤で統一。素材は箇所によって使い分けられている



TOMMYKAIRA
レガシィ
ツーリングワゴン
プレミアムエディション

◀◀エアロ類だけでなく、排気系や足まわりにも手を入れた1台。サスキットはビルシュタイン製のモノをさらにブラッシュアップしている



エンジン以外はオリジナルで製作した2シーターミッドシップカー・ZZが、トミーカイラの技術力をアピールした。
GT-Rの名前からスカイラインが外れ、ハイブリッドカーが市民権を得た2009年。トミーカイラは大きく舵を切った。経営母体が変わり、これからはコンプリートカーだけでなく、パーツ販売も行なうという。その幕開けがこのインサイトだ。

ECO・SPOと銘打ったこのクルマの企画は、下品に着飾るのではなく、あくまでもジェントルにスツキリと見せるエアロのデザインがトミーカイラらしい部分。ノーマルが持つ本来のフォルムを残しつつ、スポーティテイストを上品に取り込んだ点は、かつてのコンプリートカーを彷彿とさせる。
ちなみにインサイトのエアロでは、FRPを先行して発売し、ウエットカーボンタイプを後日発売する予定だ。

こだわりの中身についても同様、シヨーカーということもあり、正直言えばルックス重視と思われる18インチタイヤ&ホイールや限界ギリギリまで下げた車高のせいでバタつきを感じるが、その中にあるエンドレスのFUNCTIONONベースのオリジナル車高調は、しなやかに路面を掴むイメージ。4本出しのマフラーも、こもり音を発することなく、心地よいヌケの良さを感じさせる。このさり気ないチューニングこそ、らしさなのだ。
かつてはコンプリートカーとして販売することこそ、トミーカイラが存在意義だと勝手に理解していた。だからこそ、今回のパーツ販売に対する違和感はずっと。独創性のあるクルマ造りは健在である。